

ミステリ読書案内

2024. 3. 7 発行元

第557号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

和久俊三「ベスト表」(再掲)

日本の「法廷ミステリ」の第一人者とも言うべき和久俊三の『ベスト表』を取り上げる。「赤かぶ検事」シリーズをはじめとするユニークな作品が並ぶ。残された作品の数も多く、内容も多岐に渡っている。

300冊近い作品数

和久俊三作品を私は230冊ほど読んでいます。ミステリ分野の未読が50冊ほどあるので、総著作数は300冊くらいなのかなと思っていて。未読作品は手に入りにくくなりつつある。古書店の棚にあるのは売れ筋だった本がほとんど。再刊の予定もないだろうから、全作品踏破は厳しいかもしれない。

以前の『代表作』の号で取り上げたのは『仮面法廷』『雨月荘殺人事件』『赤かぶ検事転勤す』『夢の浮橋殺人事件』の4作。右の『ベスト表』は少しだけ書き換えてみた。

今回は『赤かぶ検事』ものから『シュリーマンの財宝』を、『猪狩文助』ものから『時の剣』を選んでみた。共に初期の頃の作品。和久俊三らしさが存分に発揮されたものとして評価できる。

『シュリーマンの財宝』

1979年角川文庫。

『赤かぶ検事シリーズ』の第三作に当たり、初の長編作品となったもの。元は『野性時代』に『プリアモスの財宝』の題名で一举掲載された作品で、当時の角川の『野性時代』は長編一編がまるまる納まるほどの巨大雑誌だったことがわかる。赤かぶ検事の飛騨高山時代の事件。

高山のホテルの一室で京都の美術商・八島恭三が鈍器で撲殺された形で発見された。岐阜地検高山支部の赤かぶ検事・柊茂に連絡が入り、官舎で昼食をとっていたところを呼び出される。ホテルの部屋の見取り図も載せてあって「本格もの」風の立ち上がり。調べていくと複雑な背景が浮かび上がってくる。シュリーマンがトロイ遺跡から発掘したもので、戦後に行方不明になっていたプリアモスの財宝に関わっているらしいことが判明。それで、通常はありえないようなことなのだが、赤かぶ検事はドイツ・ハンブルグへ出張することに…。国際的な大事件に発展していく。一方、赤かぶ検事の長女・葉子弁護士もドイツへ行くことになり…。スケールの大きなユーモアたっぷりの傑作。

『時の剣』

1981年角川文庫。『告発弁護士・猪狩文助

シリーズ』の第四作に当たる。『野性時代』に『鮮血の刺』の題名で一举掲載されたもの。『時の剣』の題名のとおり、「時効」がテーマ。

時効間際の14年前に奈良県で起きた人妻の殺人事件。冒頭から裁判場面がスタートする。被告人は三十四歳の鈴木益夫。弁護士席に坐るのは「法廷荒らし」の名前で知られる猪狩文助と司法修習生の夏目理恵子。猪狩の描写はいかにもという感じのよぼよぼお爺さん。ゆうに八十歳を越えて…、しわくちゃの背広に…すりきれたワイシャツ…。そして検事が起訴状を朗読している時は居眠りをしている。(作品によってはもう少し若く見えるように書いている場合もある) 事件の争点のひとつが現場に残されていた血痕。これの示す意味は何か…。法廷論争をしっかりと組み立てられるのは、さすが和久俊三ならではの巧みさである。

《和久俊三作品のベスト表》

1. 仮面法廷
2. 法廷殺人の証人
3. 雨月荘殺人事件
4. 夢の浮橋殺人事件
5. 悪夢の女相続人
6. 危険な依頼人
7. 血の眠り
8. 赤かぶ検事辞任す
9. 飛騨高山春祭りの殺人
10. 赤かぶ検事、辞表の行方
11. 桜月夜の殺人
12. 魔弾の射手
13. 京都紅葉街道の殺人
14. 京都大原花散里の殺人
15. OKINAWA 宮古島の悪魔祓い
16. 疑わしきは罰せよ(短)
17. あじさい古都の寺殺人ライン
18. メルヘン街道殺人事件
19. 赤かぶ検事転勤す(短)
20. 京都東山「哲学の道」殺人事件
21. 悪女の玉手箱
22. 被告人、名無しの権兵衛(短)
23. 京都時代祭り殺人事件
24. 三つ首荘殺人事件
25. 恥らうビーナス(短)
26. シュリーマンの財宝
27. 迷走法廷
28. 死体を跨いで進む女
29. マイナス196度の相続人(短)
30. 首吊り判事
31. 禁断の館殺人事件
32. 京都洛北密室の血天井(短)
33. 八月十五夜の殺人(短)
34. 青森ねぶた火祭りの里殺人事件
35. 大和路鬼の雪隠殺人事件
36. 伊豆死刑台の吊り橋
37. 信州湯の町殺しの哀歌(短)
38. 時の剣
39. 盗まれた一族(短)
40. 箱根古道殺しの宴
41. 復讐の時間割(短)
42. 黒ゆりは殺しのメッセージ(短)
43. 朝霧高原殺人事件
44. 祇園小唄殺人事件
45. 新宿のキリスト(短)
46. 冬の奥嵯峨殺人事件